

(translation)

JAPAN PATENT OFFICE



This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

Date of Application: March 8, 2001

Application Number: Patent Application
2001-064175

Applicant (s): Makoto Suzuki
Eiichi Suzuki

June 14, 2001

Commissioner,
Japan Patent Office

Kozo OIKAWA

Number of Certificate
2001-3055984

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

J1017 U.S. PTO
10/085882
02/27/02

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2001年 3月 8日

出 願 番 号

Application Number:

特願2001-064175

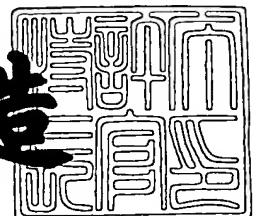
出 願 人
Applicant(s):

鈴木 允
鈴木 栄一

2001年 6月14日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3055984

【書類名】 特許願

【整理番号】 X3011

【提出日】 平成13年 3月 8日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 A23L 1/10

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府寝屋川市八幡台 1 1 - 2 9

【氏名】 鈴木 允

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府寝屋川市八幡台 1 1 - 2 9

【氏名】 鈴木 栄一

【特許出願人】

【識別番号】 591154751

【氏名又は名称】 鈴木 允

【特許出願人】

【識別番号】 598157096

【氏名又は名称】 鈴木 栄一

【代理人】

【識別番号】 100066728

【弁理士】

【氏名又は名称】 丸山 敏之

【電話番号】 06-6951-2546

【選任した代理人】

【識別番号】 100100099

【弁理士】

【氏名又は名称】 宮野 孝雄

【電話番号】 06-6951-2546

【選任した代理人】

【識別番号】 100111017

【弁理士】

【氏名又は名称】 北住 公一

【電話番号】 06-6951-2546

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 006286

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 包装円錐状寿司及びその包装シート

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 外フィルム(1)と内フィルム(2)との間にシート状食品(3)を挟み、両フィルム(1)(2)の外周縁の適所をシート状食品(3)が脱出しない様に熱溶着して形成した包装シートにて、内フィルム(2)を内側にして円錐状飯(4)の円錐表面を包んだ包装円錐状寿司において、外フィルム(1)及び内フィルム(2)は、夫々略矩形の矩形フィルム片(11)(21)に対して略二等片三角形の三角フィルム片(12)(22)を、互いにフィルム片の長辺側の端縁を重ねて略五角形に形成され、外フィルム(1)の矩形フィルム片(11)と三角フィルム片(12)の重なり部(15)は剥がれない様に熱溶着され且つ該重なり部(15)において、一方のフィルム片には重なり部(15)に沿って断続的な切込み(17)が施され、該切込み(17)には他方のフィルム片の端部(15a)が外側又は内側から被さっている包装シート S にて該包装シートの三角形部先端を円錐状飯(4)の円錐先端に対応して該円錐状飯の円錐面に巻き付けている包装円錐状寿司。

【請求項 2】 外フィルム(1)と内フィルム(2)の少なくとも何れか一方のフィルムは三角フィルム片の張り出し側の反対側を延長した被せ部(10)を有し、該被せ部(10)を円錐状飯(4)の拡大端面上で絞って閉じている請求項 1 に記載の包装円錐状寿司。

【請求項 3】 内フィルム(2)も矩形フィルム片(21)と三角フィルム片(22)の重なり部(25)が剥がれない様に熱溶着され且つ該重なり部(25)において、一方のフィルム片には重なり部(25)に沿って断続的な切込み(27)が施され、該切込み(27)には他方のフィルム片の端部(25a)が被さっている請求項 1 又は 2 に記載の包装円錐状寿司。

【請求項 4】 外フィルム(1)及び内フィルム(2)の夫々の重なり部(15)(25)の熱溶着部(16)(26)は、重なり部(15)(25)の全長に亘って線状に施されている請求項 1 乃至 3 の何れかに記載の包装円錐状寿司。

【請求項 5】 外フィルム(1)及び内フィルム(2)の重なり部(15)(25)において、三角フィルム片(12)(22)がシート状食品(3)に接する内側に位置し、矩形

フィルム片(11)(21)が外側に位置し、三角フィルム片(12)(22)に切込み(17)(27)が施されている請求項 1 乃至 4 の何れかに記載の包装円錐状寿司。

【請求項 6】 外フィルム(1)と内フィルム(2)との間にシート状食品(3)を挟み、両フィルム(1)(2)の外周縁の適所をシート状食品(3)が脱出しない様に熱溶着して形成され、内フィルム(2)を内側にして円錐状飯(5)の円錐表面を包むための包装シートであって、外フィルム(1)及び内フィルム(2)は、夫々略矩形状の矩形フィルム片(11)(21)に対して略二等辺三角形の三角フィルム片(12)(22)を、互いのフィルム片の長辺側の端縁を重ねて略五角形に形成され、外フィルム(1)の矩形フィルム片(11)と三角フィルム片(12)の重なり部(15)は剥がれない様に熱溶着され且つ該重なり部(15)において一方のフィルム片には重なり部(15)に沿って断続的な切込み(17)が施され、該切込み(17)には他方のフィルム片の端部(15a)が外側又は内側から被さっている包装シート。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【産業上の利用分野】

本発明は、円錐状飯を包装した包装円錐状寿司及びその包装シートに関するものである。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

出願人は以前に、図 1 3、図 1 4 に示す包装シートによって、図 1 6 に示す如く、円錐状飯(4)を包装した包装円錐状寿司を提案した(特許第 2 9 9 0 1 9 6 号)。

上記包装円錐状寿司の包装シートは、図 1 4、図 1 5 に示す如く、外フィルム(100)と内フィルム(200)との間にシート状食品(3)を挟み、外フィルム(100)と内フィルム(200)の外縁を熱溶着(140)して形成され、外フィルム(100)及び内フィルム(200)は、矩形フィルム片(110)(210)と該矩形フィルム片(110)(210)の長辺と同長さの一辺を長辺とする 2 等辺三角形の三角フィルム片(120)(220)の夫々長辺を重ね合わせ、外フィルム(100)の両フィルム片(110)(120)の重なり部(150)は剥離可能にスポット的に弱く熱溶着(130)されている。

包装円錐状寿司は、上記包装シートによって、内フィルム(200)が円錐状飯(4)に接する様に且つ該飯の先細部が包装シートの三角部分先端に対応する様に円錐状飯(4)の円錐面に巻かれ、包装シートの外端がシール片(5)によって接合されている。

【 0 0 0 3 】

包装円錐状寿司の包装を解くには、図 1 6 に示す如く、包装円錐状寿司の先細側を下にして、包装シートの上縁を上方に引っ張る。

内フィルム(200)は、上部の矩形フィルム片(210)と下部の三角フィルム片(220)は一部が単に重なっているだけであり、外フィルム(100)は、上部の矩形フィルム片(110)と下部の三角フィルム片(120)は剥離可能に弱く熱溶着されているだけであるから、円錐状飯(4)を包んだ包装シートの上縁を上方に引っ張ると、外フィルム(1)と内フィルム(2)の夫々の矩形フィルム片(110)(210)は、夫々相手三角フィルム片(120)(220)から離れて持ち上がる。このとき矩形フィルム片(110)(210)はシート状食品(3)に対して滑るだけであり、シート状食品(3)と一緒に持ち上がることはない。

【 0 0 0 4 】

次に、円錐状寿司に被さったままのシートの下端を摘んで下方に引張ると三角フィルム片(120)(220)だけが引き出され、シート状食品(3)は残って円錐状寿司に直接に被さる。

【 0 0 0 5 】

上記包装シートは、円錐状寿司の先細部に被さる部分は三角形を呈しており、シートの巻き重なりは少なく、フィルムの引き出し抵抗は小さいのでスムーズにフィルムの引き出しができ、フィルムの引き出し摩擦抵抗が大きすぎて、円錐状飯の先端が千切れたり、円錐状寿司の形状が崩れることを防止できる。

【 0 0 0 6 】

【 発明が解決する課題 】

外フィルム(100)と内フィルム(200)は外周縁どうしが離れない様に熱溶着されているが、この熱溶着は互いの矩形フィルム片(110)(210)と三角フィルム片(120)(220)の重なり部(150)(250)には掛かっていない。重なり部(150)(250)どうしを

離れない様に熱溶着してしまうと包装を解く際に、矩形フィルム片(110)(210)と三角フィルム片(120)(220)に分離しないからである。

従って、外フィルム(100)と内フィルム(200)の少なくとも何れか一方のフィルムは、矩形フィルムと三角フィルムを分離可能に繋いでおかねば、包装シートは最初から矩形フィルム片(110)(210)と三角フィルム片(120)(220)に分離した状態となり、円錐状飯(4)の包装ができない。

【0007】

このため包装状態で外側に表れる外フィルム(100)の矩形フィルム片(110)と三角フィルム片(120)とを容易に剥離する様に熱溶着しているのである。

ところが、この溶着強さ加減は微妙であって、溶着力が強すぎるとフィルムが分離せず、弱すぎると包装する前に溶着が剥がれてしまい、何れも商品とはならない。

熱溶着の強さは、溶着に使用するヒータへ供給する電圧の微妙な変化、工場の室温の変化、フィルムの保管環境によって変わるものであり、熱溶着条件を一定に管理して、前記微妙な溶着強さの熱溶着を施すことは困難であることが解った。

【0008】

又、上記包装シートで包装した円錐状飯(4)の拡大端面は開放されているため、円錐状飯(4)に直接に埃が付着したり、直接に手指が触れる虞れがあり、衛生面で問題がある。

又、包装円錐状寿司の開放部から異物が混入される危険があり、混入されても痕跡が残り難い。

本発明は上記問題を解決できる包装円錐状寿司及びその包装シートを明らかにするものである。

【0009】

【課題を解決する手段】

本発明の包装シートSは、外フィルム(1)と内フィルム(2)との間にシート状食品(3)を挟み、両フィルム(1)(2)の外周縁の適所をシート状食品(3)が脱出しない様に熱溶着して形成され、内フィルム(2)を内側にして円錐状飯(5)の円

錐表面を包むための包装シートであって、外フィルム(1)及び内フィルム(2)は、夫々略矩形状の矩形フィルム片(11)(21)に対して略二等辺三角形の三角フィルム片(12)(22)を、互いのフィルム片の長辺側の端縁を重ねて略五角形に形成され、外フィルム(1)の矩形フィルム片(11)と三角フィルム片(12)の重なり部(15)は剥がれない様に熱溶着され且つ該重なり部(15)において一方のフィルム片には重なり部(15)に沿って断続的な切込み(17)が施され、該切込み(17)には他方のフィルム片の端部(15a)が外側又は内側から被さっている。

【 0 0 1 0 】

本発明の包装円錐状寿司は、上記包装シートSの三角形部を円錐状飯(4)の円錐先端に対応して該包装シートを円錐状飯(4)の円錐面に巻き付けている

【 0 0 1 1 】

外フィルム(1)と内フィルム(2)の少なくとも何れか一方のフィルムの三角形部分の反対側に、円錐状飯(4)の拡大端面を覆うための被せ部(10)を延長することができる。

【 0 0 1 2 】

外フィルム(1)と同様にして、内フィルム(2)も矩形フィルム片(21)と三角フィルム片(22)の重なり部(25)が剥がれない様に熱溶着し且つ該重なり部(25)において一方のフィルム片には重なり部(25)に沿って断続的な切込み(27)を施し、該切込み(27)を、重なり部(25)の他方のフィルム片の端部(25a)で外側又は内側から覆うこともできる。

【 0 0 1 3 】

【作用及び効果】

本発明の包装円錐状寿司では、シート状食品(3)は、外フィルム(1)と内フィルム(2)に挟まれており、外気や飯の湿気から保護され風味を損なわない。又、外フィルム(1)を分離するための切込み(17)には、フィルム片の端部(15a)が外側又は内側から被さっているため、切込み(17)から外気が侵入してシート状食品(3)を湿気させることも防止できる。

これに対して、1枚ものの外フィルムに開封用の断続的な切込みを施した場合、外フィルムを2分することは可能であるが、断続的な切込みから、外気が侵入

してシート状食品(3)を湿気させる問題が残る。

【 0 0 1 4 】

円錐状寿司の包装を解くには、包装寿司の先細側を下にして、包装シート S の上縁を上方に引っ張る。

外フィルム(1)は、上部の矩形フィルム片(11)と下部の三角フィルム片(12)との重なり部(15)は剥がれない様に熱溶着されているから、該熱溶着部(16)から外フィルム(1)が分離することはない。

但し、熱溶着部(16)の近傍にて重なり部(15)に沿って切込み(17)が施されているため、この切込み(17)部分から外フィルム(1)は2つに分離する。

【 0 0 1 5 】

内フィルム(2)の矩形フィルム片(21)と三角フィルム片(22)の重なり部(25)は、単に重なっているだけ、或いは外フィルム(1)と同様の分離可能な構造であるため、包装シート S の引っ張りにより、外フィルム(1)及び内フィルム(2)の矩形フィルム片(11)(21)は夫々相手三角フィルム片(12)(22)から離れて持ち上がる。このとき矩形フィルム片(11)(21)はシート状食品(3)に対して滑るだけであり、シート状食品(3)と一緒に持ち上がることはない。

【 0 0 1 6 】

内フィルム(2)の重なり部(25)に外フィルム(1)と同様の熱溶着部(26)及び断続的な切込み(27)を施した場合でも、外フィルム(1)についての場合と同様の理由で、切込み(27)から飯の湿気が侵入してシート状食品(3)を湿気させることを防止できる。

【 0 0 1 7 】

次に、円錐状寿司(4)に被さったままの包装シートの下端を摘んで下方に引っ張ると三角フィルム片(12)(22)だけが引き出され、シート状食品(3)は残って円錐状寿司(4)に直接に被さる。

【 0 0 1 8 】

本発明の場合、外フィルム(1)と内フィルム(2)の重なり部(15)(25)を剥がれない様に強固に熱溶着することができ、これは従来のように、引っ張れば容易に剥がれる微妙な溶着強さの熱溶着をフィルムに施す様な、難しい熱溶着条件の管理

は必要せず、簡単に実施できる。

【 0 0 1 9 】

円錐状寿司の先細部は包装シート S の略三角形部分で巻かれるため包装シートの巻き重なりは少なく、フィルムの引出し抵抗は小さくなるのでスムーズにフィルムの引き出しができ、フィルムの引出し抵抗が大きすぎて、円錐状飯の先端が千切れたり、寿司の形を崩すことを防止できる。

【 0 0 2 0 】

外フィルム(1)と内フィルム(2)の少なくとも何れか一方のフィルムの三角形部分の反対側に被せ部(10)を延長し、該被せ部(10)によって円錐状飯(4)の拡大端面を閉じれば、円錐状飯(5)の乾燥を防止して風味が損なわれることを防ぐことができる。又、円錐状飯(4)に直接に埃が付着したり、手指が触れることはなく、衛生的であり、又、異物の混入を防止できる。

【 0 0 2 1 】

【実施例】

図 3、図 4 に示す如く、包装シート S は、外フィルム(1)と内フィルム(2)との間にシート状食品(3)を挟んで形成される。

外フィルム(1)は、透明樹脂フィルムで形成され、内フィルム(2)は飯との滑りの良い樹脂フィルムで形成されている。

外フィルム(1)及び内フィルム(2)は、共に矩形フィルム片(11)(21)の長手方向に沿う 2 辺の内、一方の辺に二等辺三角形の三角フィルム片(12)(22)の長辺を重ねて溶着して、略五角形に形成されている。

【 0 0 2 2 】

本発明に於ける矩形フィルム片(11)(21)とは略矩形のフィルム片と言う程度であって、実施形でも三角形フィルム片(12)(22)が重なる側の辺の両端は、三角フィルム片(12)(22)の両斜辺に対応してカット部(19)(19)を有している。このカット部が大きい小さいかは問わない。

又、本発明に於ける三角形フィルム片(12)(22)は、略二等辺三角形と言程度のものである。

【 0 0 2 3 】

実施例の矩形フィルム片(11)(21)は、長さ約220mm、幅約50mmであり、三角フィルム片(12)(22)の突出高さは約90mm、矩形フィルム片(11)(21)と三角フィルム片(12)(22)は約10mm幅で重なっている。

外フィルム(1)及び内フィルム(2)は、夫々重なり部(15)(25)では三角フィルム片(12)(22)がシート状食品(3)側に位置しており、該重なり部(15)(25)にて、矩形フィルム片(11)(21)と三角フィルム片(12)(22)が剥がれない様に熱溶着される。

実施例では、重なり部(15)(25)の全長に亘って線状に熱溶着が成される。

【0024】

三角フィルム片(12)(22)には、線状の熱溶着部(16)(26)に接近し、熱溶着部(16)(17)に沿って断続的な切込み(17)(27)がフィルム片(12)(22)の全長に亘って施される。切込み(17)(27)は夫々三角フィルム片(12)(22)の表裏に貫通する。

上記断続的な切込み(17)(27)には、矩形フィルム片(11)(21)の端部(15a)(25a)が外側から被さる。

【0025】

外フィルム(1)と内フィルム(2)の夫々の矩形フィルム片(11)(21)と三角フィルム片(12)(22)との重なり部(15)(25)及び切込み(17)(27)の位置は、実施例では図3に示す如く、矩形フィルム片(11)(21)と三角フィルム片(12)(22)の仮想境界線L1近傍であるが、三角フィルムの尖り先端側に平行にずれても可い。このズレは、三角フィルム片(12)(22)の突出高さの1/3まで、実施例では30mmまでとする。これは、矩形フィルム片(11)(21)と三角フィルム片(12)(22)の重なり部(15)(25)が三角フィルム片(12)(22)の尖り先端側へ大きくずれると、後記の如く包装を解く際に、矩形フィルム片(11)(21)を引っ張る際に抵抗が大きすぎて円錐状飯(4)を型くずれさせてしまう。

【0026】

実施例のシート状食品(3)は、内、外両フィルム(2)(1)よりも一回り小さいく裁断されたシート状海苔であるが、シート状海苔に限ることはなく、シート状昆布等、食することのできるシート状食品であればよい。

外フィルム(1)と内フィルム(2)との間にシート状食品(3)を挟み、外フィル

ム(1)と内フィルム(2)の外周縁を、矩形フィルム片(11)(21)と三角フィルム片(12)(22)の重なり部(15)(25)に掛からぬ様に、線状或いはスポット的に熱溶着して包装シートSを完成する。この熱溶着は剥がす必要がないために、剥がれない様に強く溶着しておくことができる。

【 0 0 2 7 】

次に包装円錐状寿司の包装手順を説明する。

先ず、図5に示す如く、包装シートSを三角フィルム片(12)(22)側が先細となる様に円錐状に巻き、巻付け端をシール片(5)で止める。

次に、図6に示す如く、円錐状に巻いた包装シートSをガイドブロック(7)の円錐穴(71)に嵌めて、包装シート上に飯の塊(41)を投入する。

図6に示す如く、突込み部材(8)にて飯の塊(41)を突き込んで包装シートSの円錐先端まで飯を充満させて円錐状に成形すると共に、突込み部材(8)の穴明け片(81)で円錐状飯(4)の端面に穴(42)をあける。

上記穴(42)に具(40)容れ、ガイドブロック(7)から取出して包装円錐状寿司を完成する。

【 0 0 2 8 】

本発明の包装円錐状寿司では、シート状食品(3)は、外フィルム(1)と内フィルム(2)に挟まれており、外気や飯の湿気から保護され風味を損なわない。

外フィルム(1)を分離するための断続的な切込み(17)には、矩形フィルム片(11)の端部(15a)が被さっているため、切込み(17)から外気が侵入してシート状食品(3)を湿気させることもない。又、内フィルム(2)の断続的な切込み(27)にも矩形フィルム片(21)の端部(25a)が被さっており、飯の湿気が切込み(27)から侵入してシート状食品(3)を湿気させることも防止できる。

【 0 0 2 9 】

包装円錐状寿司の包装を解くには、包装寿司の先細側を下にして、包装シートSの上縁を上方に引っ張る。

外フィルム(1)及び内フィルム(2)は、夫々上部の矩形フィルム片(11)(21)と下部の三角フィルム片(12)(22)の重なり部(15)(25)は剥がれない様に熱溶着されているから、該熱溶着部(16)(26)から外フィルム(1)及び内フィルム(2)が分離

することはない。

但し、外フィルム(1)及び内フィルム(2)は共に熱溶着部(16)(26)の近傍にて重なり部(15)(25)に沿って切込み(17)(27)が施されているため、この切込み(17)(27)部分から外フィルム(1)及び内フィルム(2)は夫々2つに分離する。

【 0 0 3 0 】

上記切込み(17)(28)は、矩形フィルム片(11)(21)と三角フィルム片(12)(22)の仮想境界線L1の近傍に位置しているため、即ち、円錐状飯(4)の拡大側寄りに位置しているため、矩形フィルム片(11)(21)を引っ張り上げる際の引っ張り抵抗を小さくして、円錐状飯(4)が型くずれすることを防止できる。

【 0 0 3 1 】

図9は包装シートSの他の実施例を示しており、外フィルム(1)の矩形フィルム片(11)(21)から三角形部分(12)とは反対側へ長方形の被せ部(10)を継ぎ目なく一体に突出している。上記被せ部(10)は長方形部分(11)の全長に亘って約60mm幅で突出している。

【 0 0 3 2 】

上記被せ部(10)は、前述の手順で包装シートSを円錐状に巻いてから飯を詰めた際に、図10に示す如く、被せ部(10)が円錐状飯(4)の上面から大きく突出した状態となる。

対向する2つの熱溶着用突き片(8)(8)を接近させて、上記被せ部(10)をスポット的に熱溶着する(図10、図11参照)。

次に、図12に示す如く、熱溶着用突き片(8)(8)と直交し、互いに対向して前後動する溶着挟み片(81)(81)によって被せ部(10)を熱溶着して閉じる。

これによって、円錐状飯(4)は端面もフィルムで覆われるため、衛生的であり、且つ異物混入の虞れもない。故意に異物を混入しようとしても、包装の一部を開かねばならず、痕跡が残るため、安全性を保障できる。

【 0 0 3 3 】

実施例では、透明外フィルム(1)だけを延長して被せ部(10)を形成したことにより、被せ部(10)を閉じても、被せ部(10)を透して外部から円錐状飯(4)や具(40)が見える利点があるが、内フィルム(2)だけを延長して被せ部(10)を形成する

ことも、或いは外フィルム(1)と内フィルム(2)の両方を延長して被せ部(10)を形成できるのは勿論である。

【 0 0 3 4 】

又、実施例では、外フィルム(1)及び内フィルム(2)の重なり部(15)(25)では、互いに三角フィルム片(12)(22)がシート状食品(3)に接する内側に位置し、矩形フィルム片(11)(21)が外側に位置しているため、外フィルム(1)の切込み(17)は、矩形フィルム片(11)の端部(15a)に隠れて体裁がよく、図6に示す如く、円錐状に巻いた包装シートに飯(41)を投入して突き込む際に、内フィルム(2)の三角フィルム片(22)上の切込み(17)に被さる矩形フィルム片(21)の端部(25a)は下向きとなり、飯(41)が引っ掛かることはない。

【 0 0 3 5 】

但し、外フィルム(1)及び内フィルム(2)の重なり部(15)(25)は、互いに矩形フィルム片(11)(21)をシート状食品(3)に接する内側に位置させ、三角フィルム片(12)(22)を外側に位置させ、矩形フィルム片(11)(21)の端部(15a)(25a)をシート状食品側(内側)から切込み(17)(27)に被せても切込み(17)(27)からの湿気流入を防止できる。

又、外フィルム(1)、内フィルム(2)を夫々2分するための切込み(17)(27)は、上記の如く、三角フィルム片(12)(22)に施すことに限定はされず、重なり部(15)(25)に於いて、矩形フィルム片(11)(21)に断続的な切込みを施し、三角フィルム片(12)(22)の端部を外側或いは内側から該切込みに被せることもできる。

【 0 0 3 6 】

本発明は、上記実施例の構成に限定されることはなく、特許請求の範囲に記載の範囲で種々の変形が可能である。

【図面の簡単な説明】

【図1】

包装シートの斜面図である。

【図2】

A図は矩形フィルム片と三角フィルム片を溶着する前の外フィルムの斜面図、B図は、矩形フィルム片と三角フィルム片を溶着した外フィルムの斜面図である。

【図 3】

包装シートの分解斜断面図である。

【図 4】

図 1 A－A 線に沿う包装シートの断面図である。

【図 5】

包装シートを円錐状に巻いた状態の斜断面図である。

【図 6】

円錐状に巻いた包装シートに飯を投入した状態の断面図である。

【図 7】

飯を押し込んだ状態の断面図である。

【図 8】

包装円錐状寿司の斜断面図である。

【図 9】

被せ部を延長した包装シートの他の実施例の斜断面図である。

【図 1 0】

図 9 の包装シートを円錐状に巻いて、飯を突き込んだ状態の断面図である。

【図 1 1】

被せ部を左右から熱溶着した状態の断面図である。

【図 1 2】

被せ部を完全に閉じた状態の斜断面図である。

【図 1 3】

出願人が以前提案した包装シートの斜断面図である。

【図 1 4】

図 1 3 の A－A 線に沿う断面図である。

【図 1 5】

図 1 3 の包装シートの分解斜断面図である。

【図 1 6】

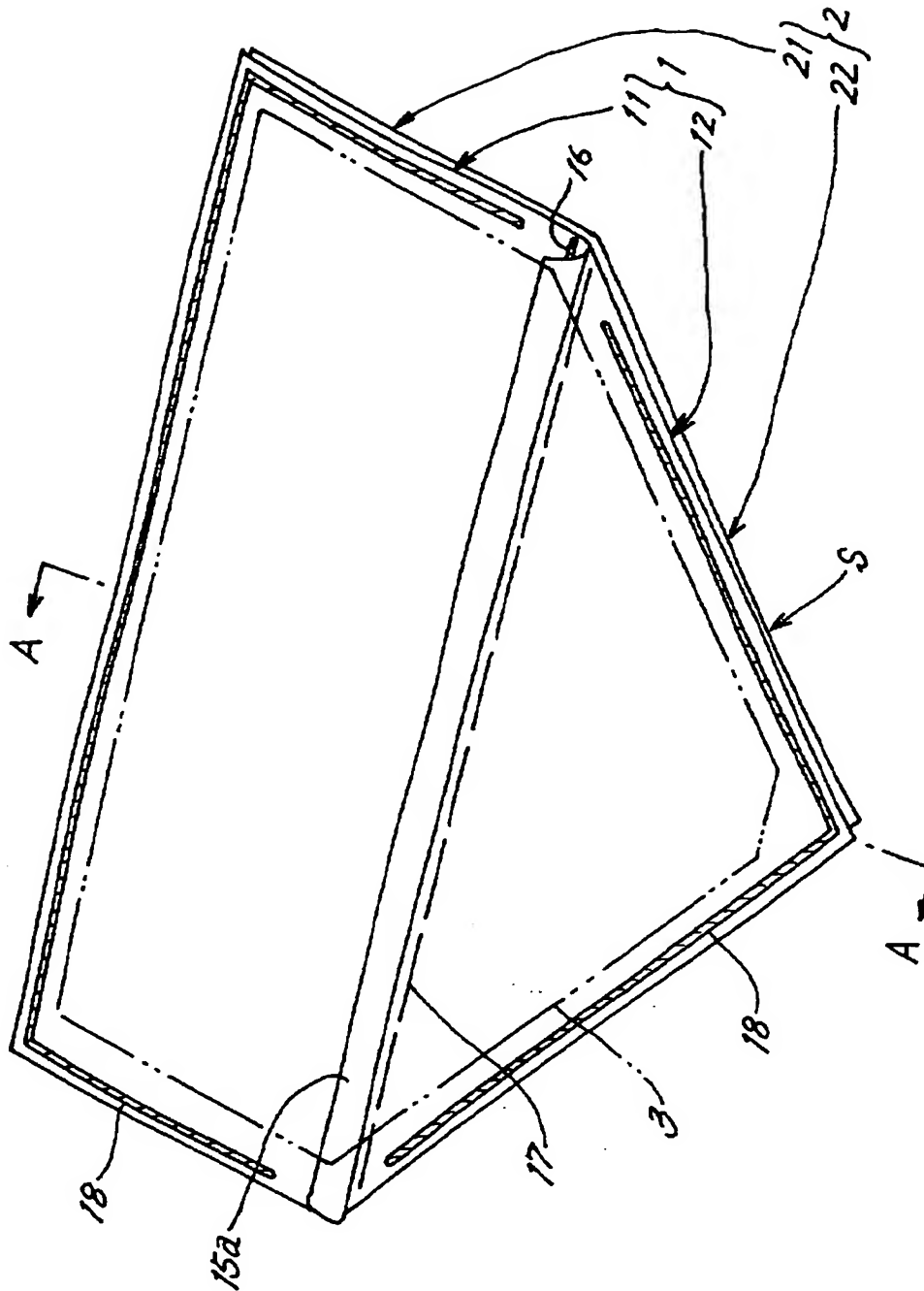
図 1 3 の包装シートで包装した包装円錐状寿司の斜断面図である。

【符号の説明】

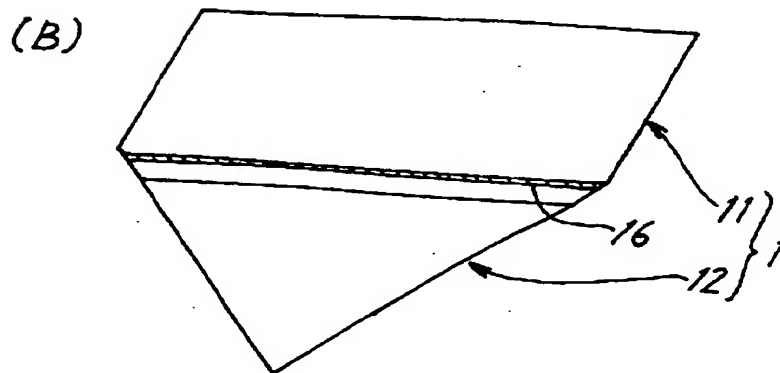
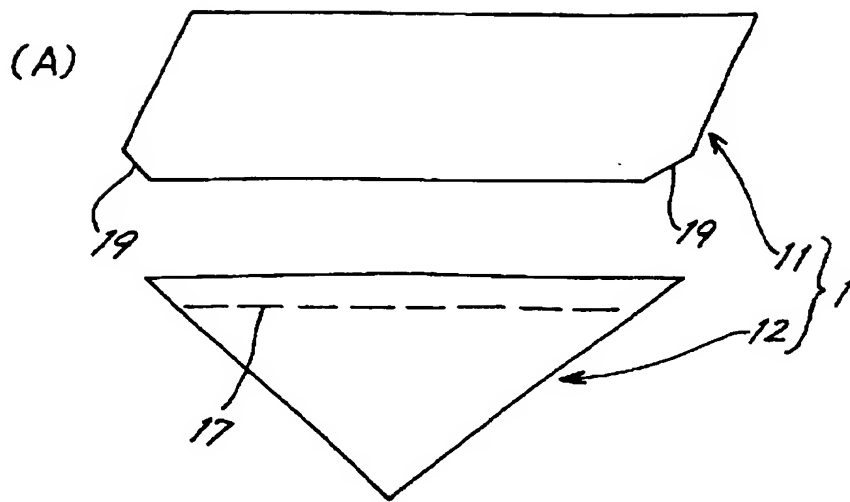
- (1) 外フィルム
- (10) 被せ部
- (11) 矩形フィルム片
- (12) 三角フィルム片
- (15) 重なり部
- (16) 熱溶着部
- (17) 切込み
- (2) 内フィルム
- (21) 矩形フィルム片
- (22) 三角フィルム片
- (25) 重なり部
- (26) 熱溶着部
- (27) 切込み
- (3) シート状食品

【書類名】 図面

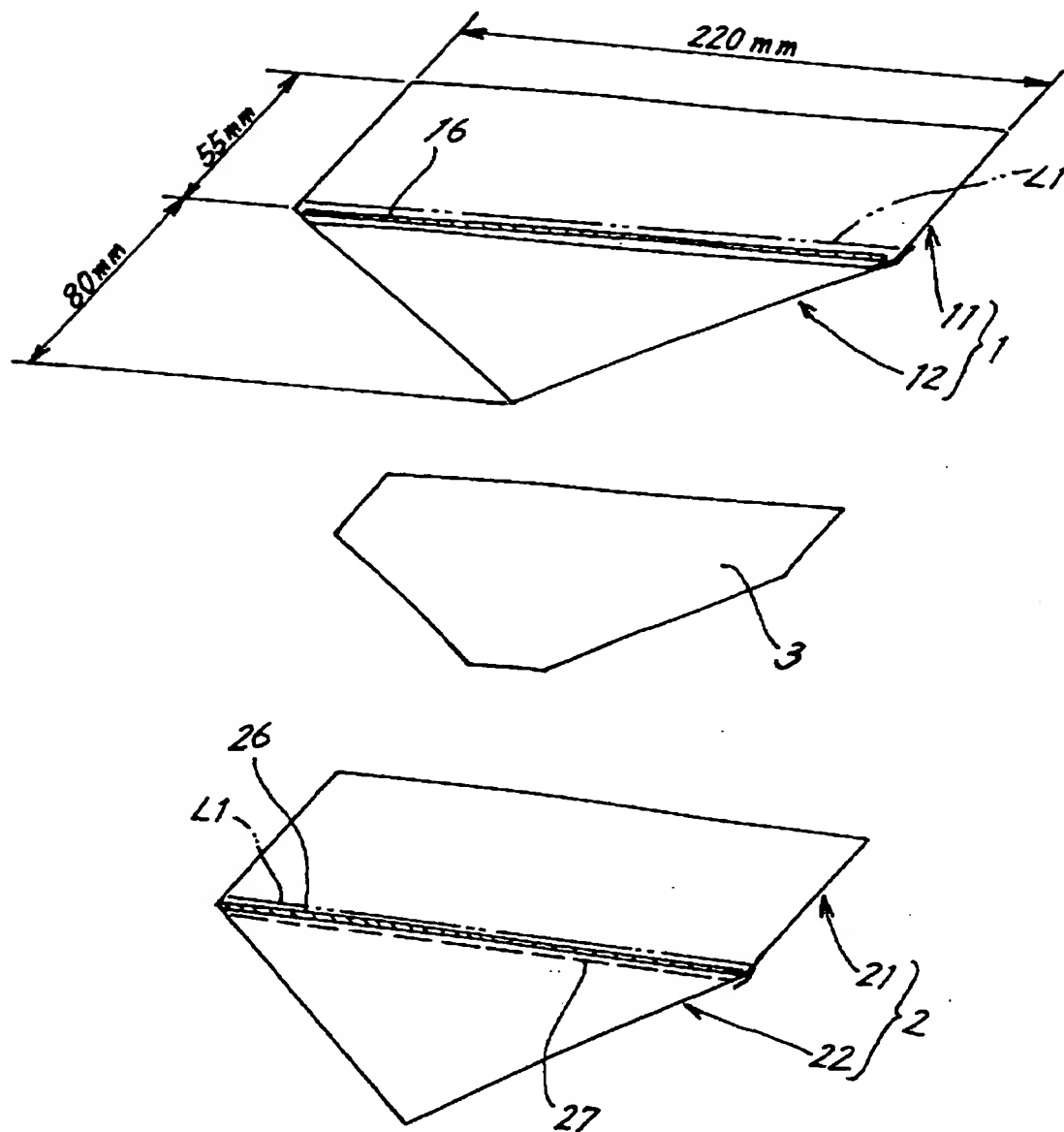
【図 1】



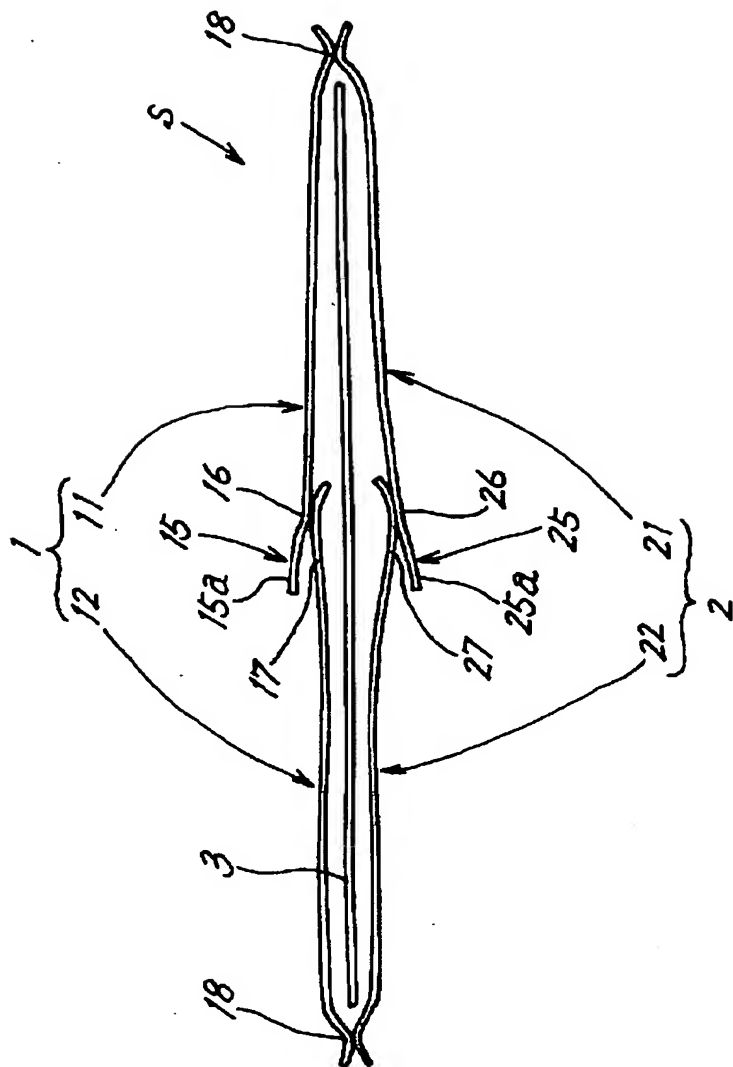
【図 2】



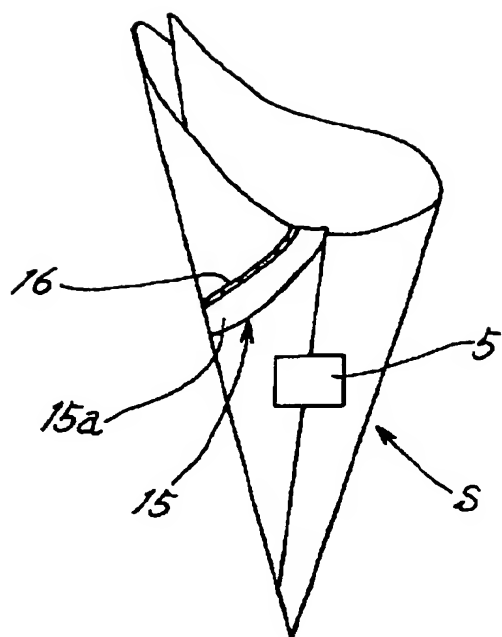
【図 3】



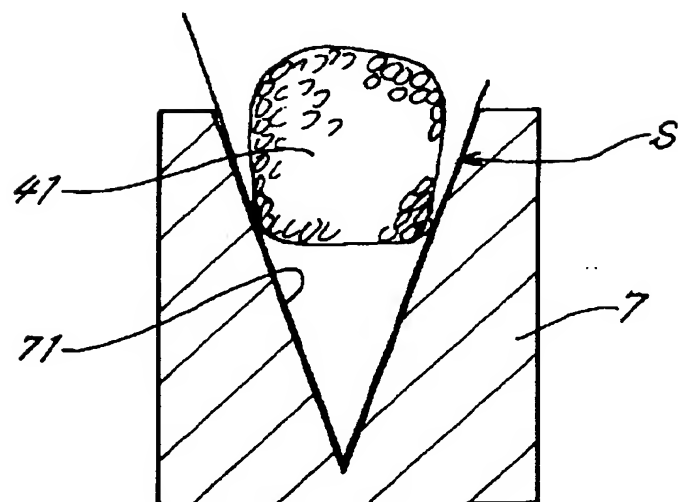
【図4】



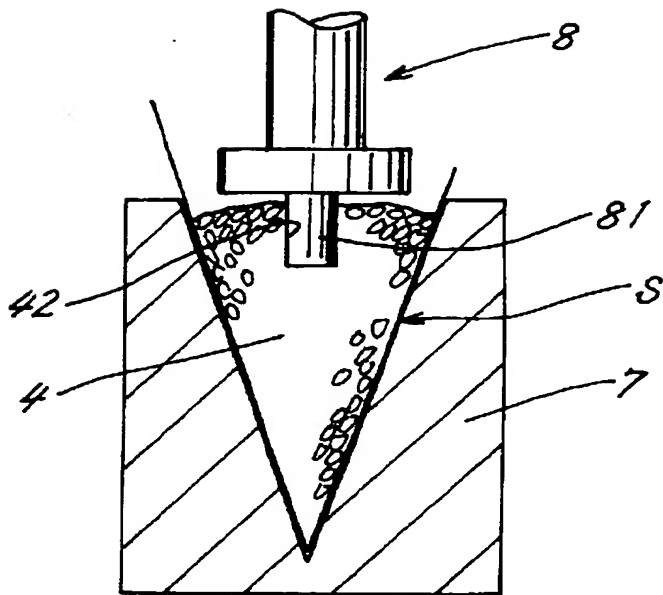
【図 5】



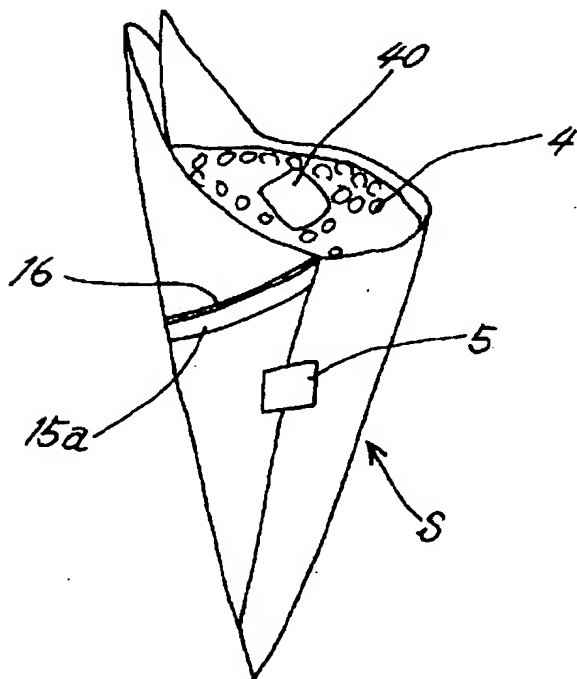
【図 6】



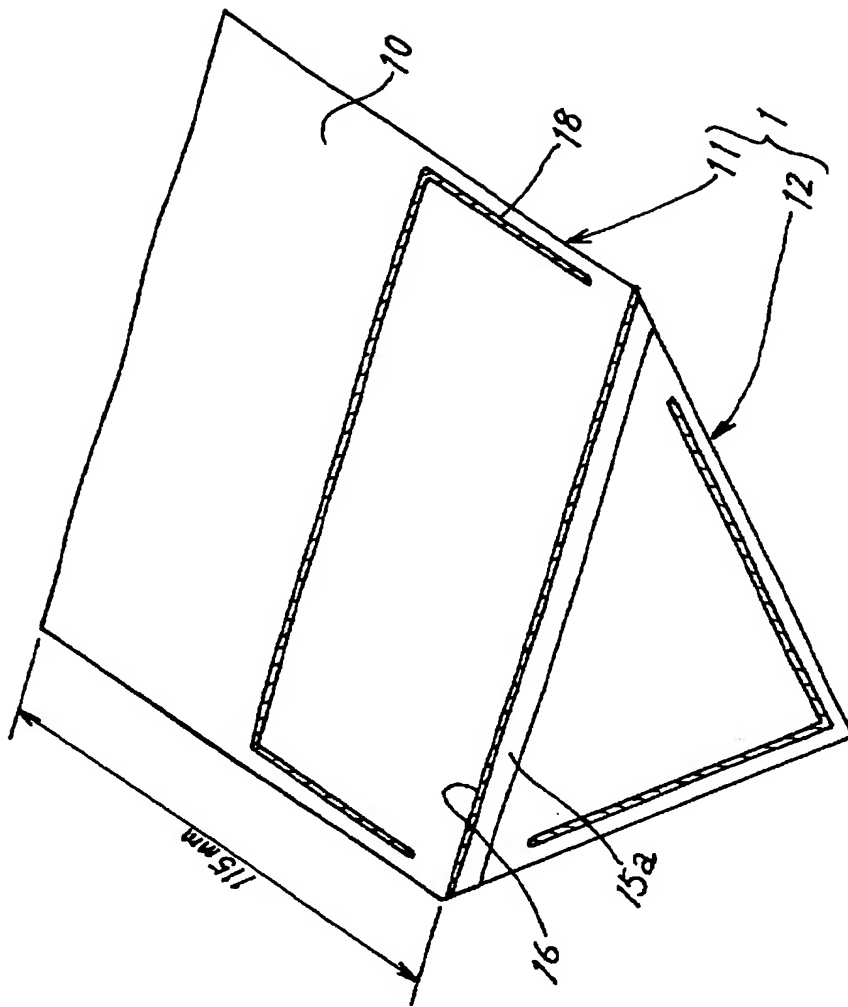
【図 7】



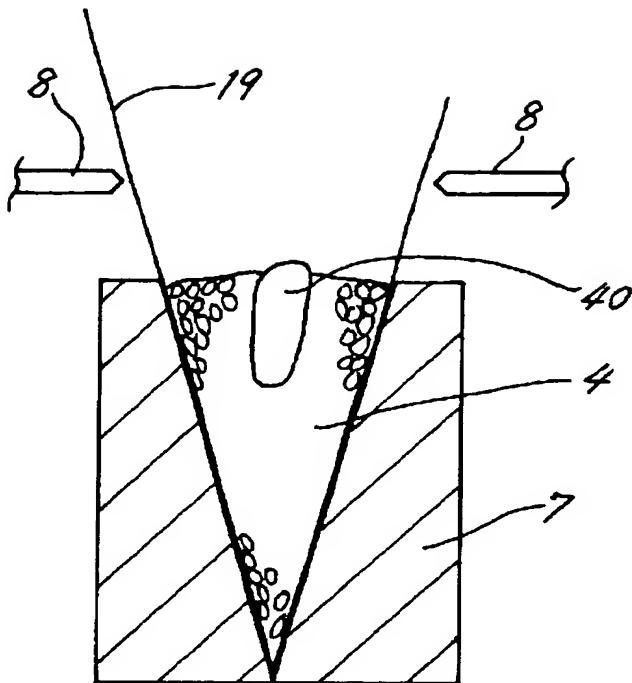
【図 8】



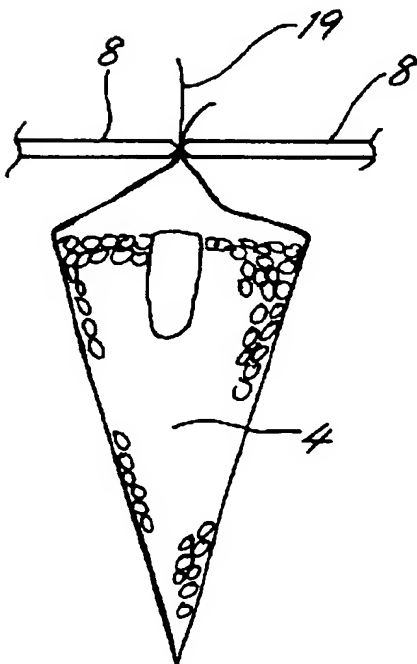
【图9】



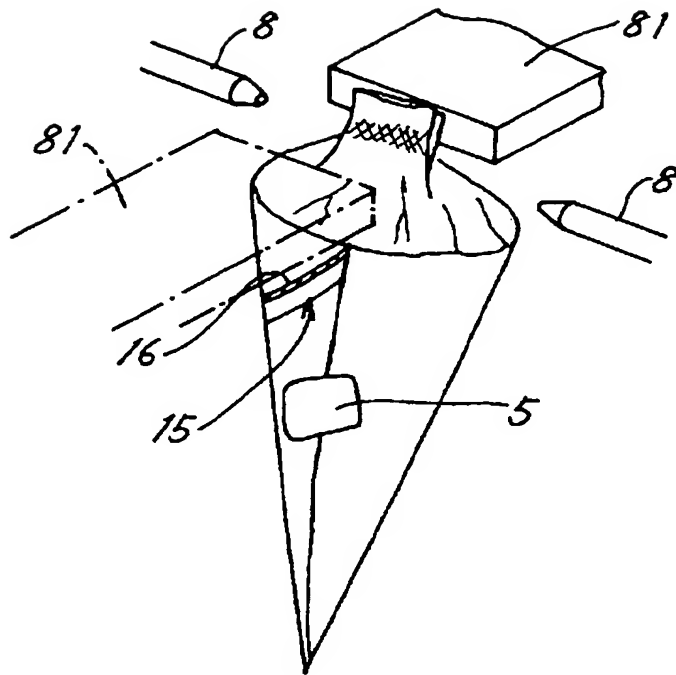
【図 10】



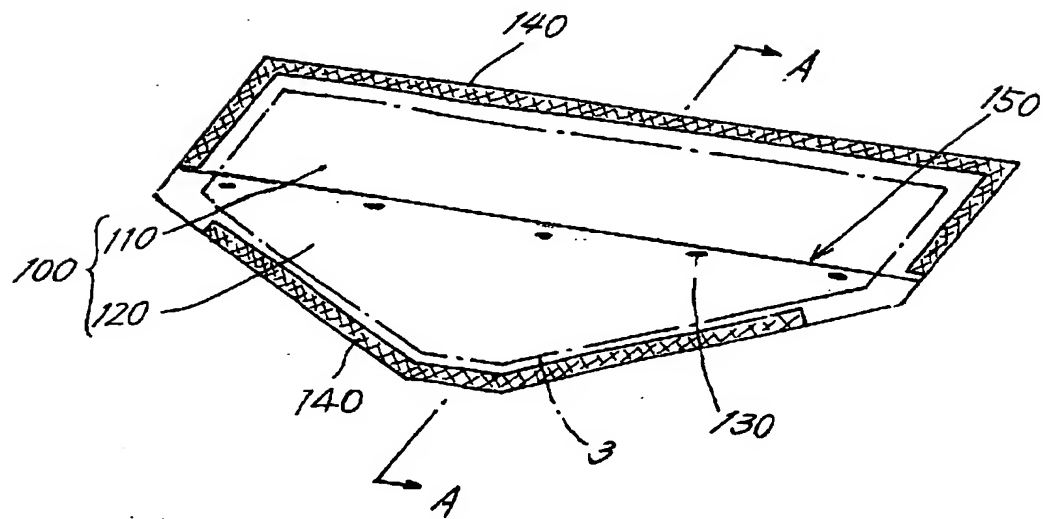
【図 11】



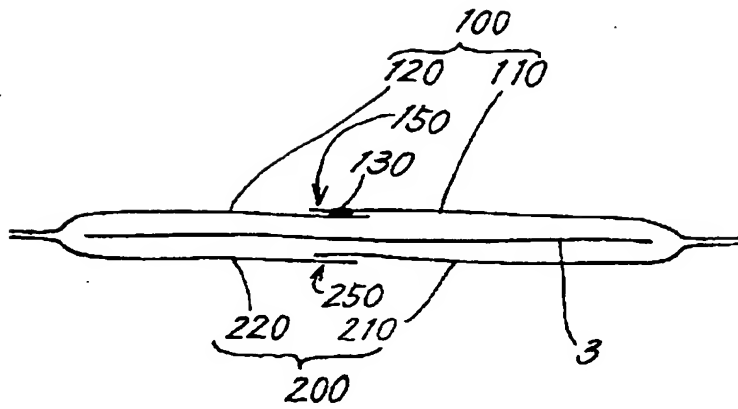
【図 12】



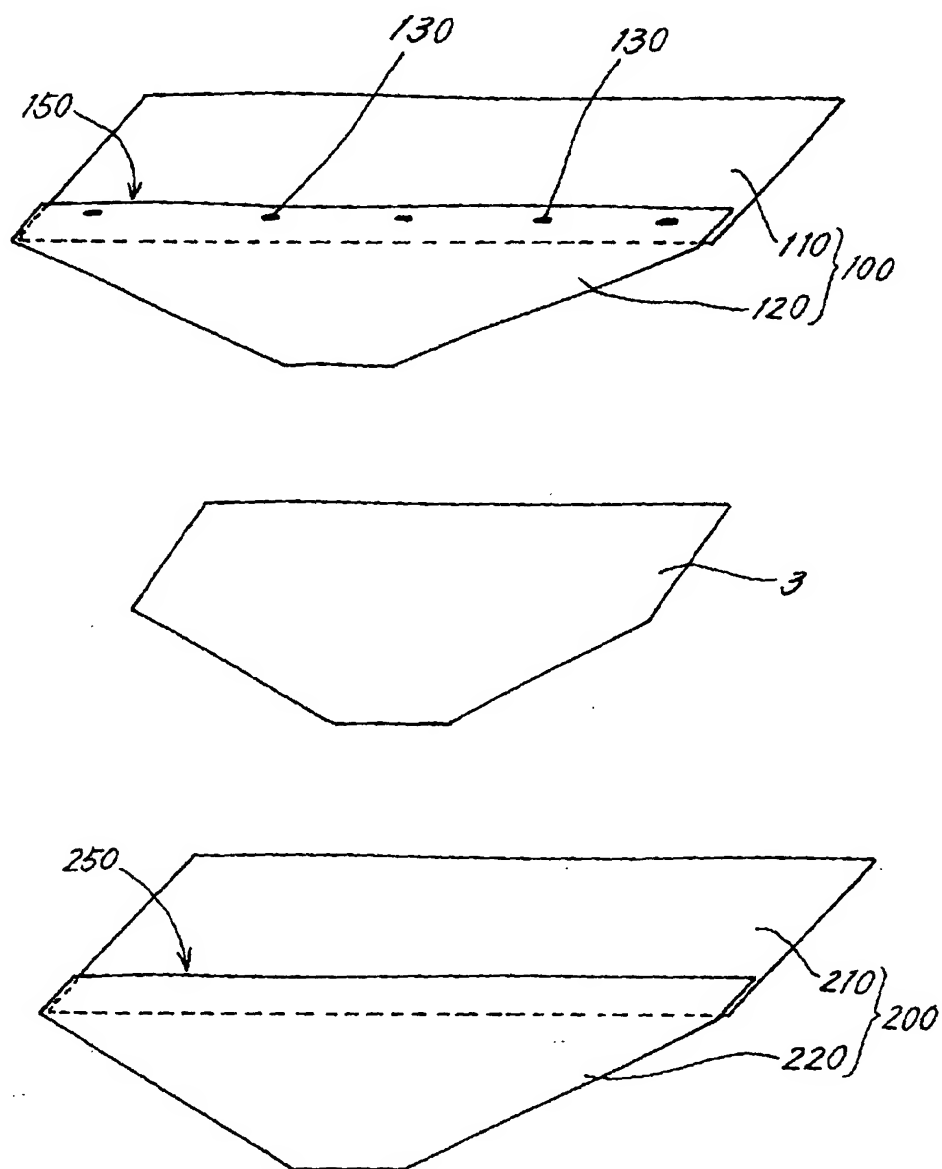
【図 13】



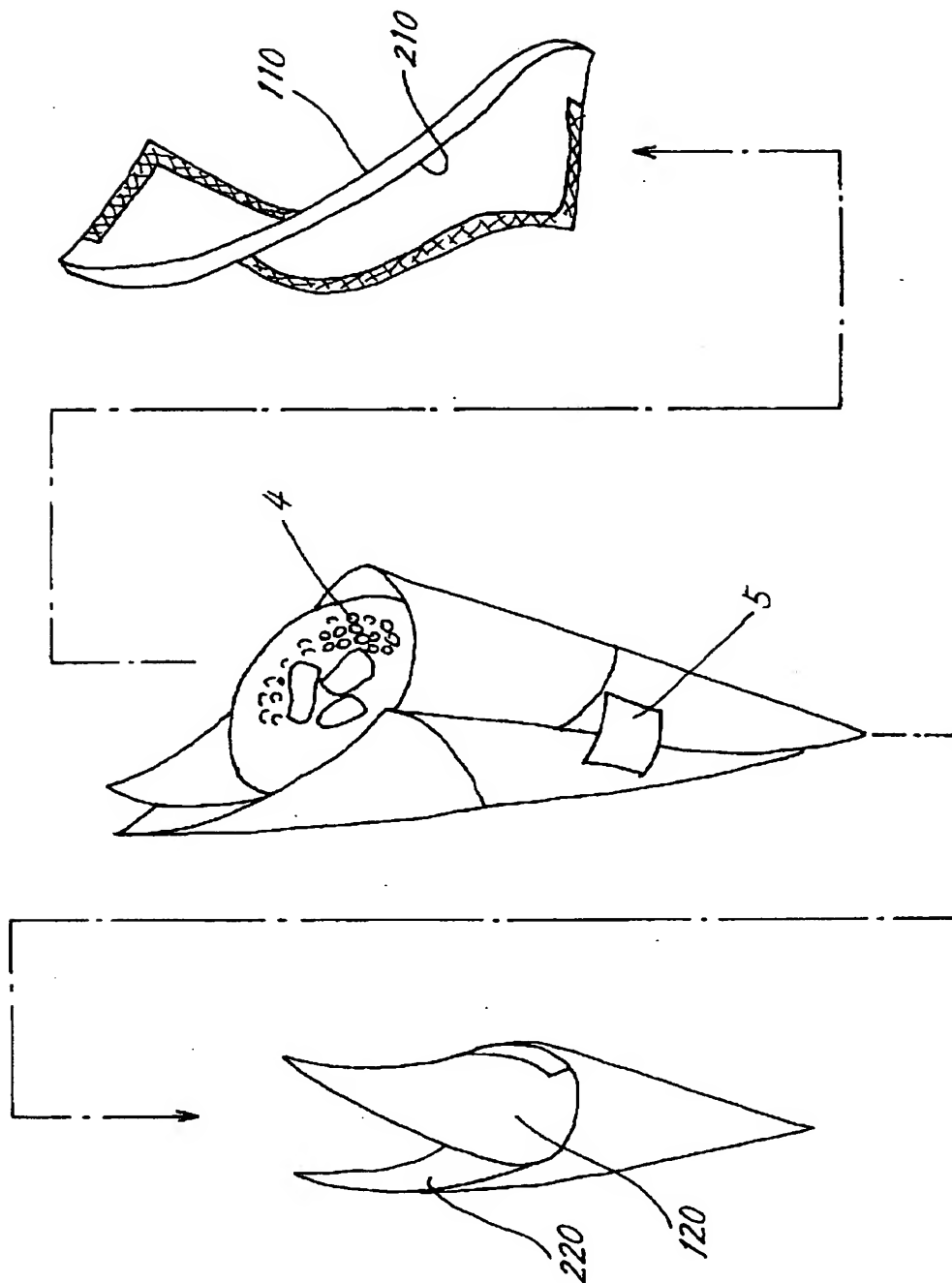
【図 1 4】



【図15】



【図16】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 包装円錐状寿司の包装を寿司の形状を崩さずに簡単に解く。

【解決する手段】 内外両外フィルム 2、1 の間にシート状食品 3 を挟み、両フィルム 2、1 の適所をシート状食品が脱出しない様に熱溶着して形成した包装シートにて包装した包装円錐状寿司において、外フィルム 1 及び内フィルム 2 は、夫々矩形フィルム片 11、21 と三角フィルム片 12、22 の夫々の内端縁を重ね合わせて形成され、重なり部 15、25 が剥がれない様に熱溶着され且つ該重なり部 15、25 においてシート状食品 3 に接する内側のフィルム片には重なり部 15、25 に沿って断続的な切込み 17、27 が施され、該切込みには重なり部 15、25 の外側のフィルム片の端部 15a、25a が被さっており、包装シート S の三角形部先端を円錐状飯 4 の円錐先端に対応して該包装シートを円錐状飯の円錐面に巻き付けている。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [5 9 1 1 5 4 7 5 1]

1. 変更年月日	1 9 9 1 年 7 月 5 日
[変更理由]	新規登録
住 所	大阪府寝屋川市八幡台 1 1 - 2 9
氏 名	鈴木 允

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [598157096]

1. 変更年月日 1998年11月13日

[変更理由] 新規登録

住 所 大阪府寝屋川市八幡台11-29

氏 名 鈴木 栄一